

平成 15 年 4 月 15 日

各 位

新日鉱ホールディングス株式会社

## 中期経営計画（平成 15～17 年度）の策定について

当社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：野見山昭彦）は，この程，平成 15 年度から平成 17 年度を対象とする新日鉱グループの中期経営計画を策定いたしましたのでお知らせいたします。

内外の政治・経済が先行き不透明感を強めるなか，石油，金属，電子材料の 3 コア事業をグローバルに展開する新日鉱グループの経営環境は，今後一段と厳しさを増すものと予想されますが，当グループは，本計画に基づく経営戦略・諸施策を確実に実行していくことにより，資本効率の向上と各事業の競争力強化を実現し，グループの企業価値を高めてまいります。

### 記

#### 1．グループ経営の基本戦略

##### （1）グループ事業戦略

###### コア事業における収益力強化

コア事業各社の事業基盤をより強固で強靱な体質とし，収益力を強化する。  
このため，経営の重点を「量から質」「利益率重視」に置き，構造改革を継続的に推進する。

###### 成長期待分野への新規展開

グループの将来の発展に向けて，ワールドワイドな視点から，事業の革新・成長に繋がる有望な分野・プロジェクトを積極的に追求し，その事業化を図る。

これらを実現していくため，グループの経営資源の最適配分を図る。

また，事業グループ間のシナジーを追求するとともに，他社とのさらなるアライアンス等に積極的に取り組む。

##### （2）グループ財務戦略

収益力強化と資産のスリム化等により，有利子負債の削減に努め，財務体質の大幅改善を図る。

また，デフレ経済下，適時に，保有株式・諸資産の適正評価を実施し，財務体質の強化・健全化を図る。

#### 2．中長期的グループ経営目標

将来の環境変化，グループ総体の経営資源・潜在力等を踏まえ，5 年後を睨んだ中長期的な経営目標として，

連結売上高経常利益率 5%（年間約 1,000 億円の経常利益）

連結自己資本比率 25%（約 3,800 億円の自己資本）

連結有利子負債削減 3,000 億円

の達成をめざす。

### 3. 中期経営計画の概要

本中期経営計画期間中の当グループの事業環境は、イラク戦争の勃発等による国際情勢の変動、デフレ深刻化による内外経済の停滞懸念および産業構造・市場構造の大きな変化等により、先行き不透明な状況が続くものと予想されるが、当グループの今後3カ年の基本的な道程を明確にするとの観点から本計画を策定した。

本中期経営計画の実行により、平成17年度には、

連結経常利益 750 億円（平成14年度見通し 360 億円）

連結売上高経常利益率 3.4%（同 1.7%）

連結有利子負債約 2,000 億円削減（平成18年3月末約 6,900 億円）

連結自己資本比率 17.4%（平成15年3月末見通し 12.4%）

の見通しとなり、これにより、中長期的経営目標達成の目途を得た。

#### (1) 前提条件

		14年度 見通し	15年度 計画	16年度 計画	17年度 計画
為替レート（円/\$）		122	120	120	120
石油	原油 FOB（\$ / BBL）	26.3	23.9	22.4	22.4
	燃料油販売量（千kl / 年）	21,970	20,870	20,940	20,890
金属	銅価（¢ / lb）	72.2	75.0	80.0	80.0
	P P C 銅販売量（千t / 年）	582	572	585	582
	金属加工生産販売量（千t / 年）	49	46	42	42
電子材料	電解銅箔販売量（t / 月）	2,090	2,700	3,000	3,200
	圧延銅箔販売量（千m / 月）	2,000	2,600	3,700	4,000

P P C：パン・パシフィックカッパー㈱（日鉱金属 66%、三井金属 34% 出資の銅事業合弁会社）

#### (2) 経常利益

外部環境の変化を織り込んだうえで、

石油事業については、販売部門の改善、精製・販売・管理部門のコストダウン

金属事業については、製錬工程の一部集約化、金属加工製品の高付加価値化

電子材料事業については、電解銅箔生産体制の効率化、圧延銅箔・ターゲット材等成長製品の増販

等により、平成17年度は750億円の経常利益となった。

（単位：億円）

		14年度 見通し	17年度 計画	差異
売上高		21,500	21,940	( ) 440
経常利益		360	750	( ) 390
経常利益 セグメント別 内訳	石油（ジャパンエナジーグループ）	230	340	( ) 110
	金属（日鉱金属グループ）	150	250	( ) 100
	電子材料（日鉱マテリアルズグループ）	50	130	( ) 180
	その他（独立事業・機能サポート）	30	30	-

売上高経常利益率（%）	1.7	3.4	( ) 1.7
-------------	-----	-----	---------

## (3) キャッシュフローおよび有利子負債削減

(単位：億円)

	14年度 見通し	15～17年度計 計画	14～17年度計 計画
営業キャッシュフロー	190	2,540	2,730
投資キャッシュフロー	250	700	950
設備投資・投融資支出	490	1,560	2,050
投融資回収	200	300	500
事業譲渡・資産売却	40	560	600
その他(配当金等)	70	150	220
フリーキャッシュフロー	130	1,690	1,560

フリーキャッシュフロー	1,560 億円
現金・現金同等物の圧縮	440 億円
有利子負債削減	2,000 億円

## (4) 連結バランスシート

	13年度末実績 (A)	14年度末見通し	17年度末計画 (B)	差異 (B - A)
総資産(億円)	16,959	16,360	15,180	-1,780
有利子負債(億円)	8,928	8,880	6,930	-2,000
自己資本(億円)	1,815	2,020	2,640	+825
自己資本比率(%)	10.7	12.4	17.4	+6.7
1株当たり自己資本(円)	163	297	388	+225

期末発行済株式数(連結)

13年度末：1,114百万株，14年度末・17年度末：680百万株(自己株式168百万株控除後)

## (5) 設備投資・投融資

財務体質強化の観点から，コア事業の収益力の維持・強化のために不可欠な投資案件を厳選するとともに，成長分野への投資および構造改革に必要な投資を積極的に行う。

	15-17 累計
(1) 既存事業における収益力の維持・強化 SS投資等販売強化 サルファーフリー対応 製油所競争力強化 システム投資 製錬工程の一部集約化 その他	580 億円
(2) 成長期待分野への新規展開 天然ガスの探鉱 海外銅・亜鉛プロジェクト投資 金属加工事業の中国展開 電子材料製品の高付加価値化 圧延銅箔能力増強 ターゲット材能力増強 その他	370 億円
(3) 環境・維持保全投資等	610 億円
合計	1,560 億円

#### 4.コア事業会社の事業環境と基本戦略・重点課題

##### (1) 石油事業(ジャパンエナジーグループ)

###### 事業環境

- ・ 国内需要は、輸送用は横ばい、燃料油総体としては産業用を中心に減少
- ・ 過剰精製設備は早期には解消せず、供給プレッシャーは継続
- ・ 石油化学市況は平成 14 年度下期水準で推移

###### 基本戦略・重点課題

- ・ 収益基盤の一段の強化  
(供給部門)  
サルファーフリー等の環境規制に積極的に対応  
コスト競争力の構造的な強化(精製コスト 1,500 円/kl 以下を目標)  
(販売部門)  
流通チャネルの再編等のさらなる強化・効率化  
中核 S S 群の積極的な強化・育成
- ・ 油田・ガス田開発の有望案件に対する積極的な取り組み

##### (2) 金属事業(日鉱金属グループ)

###### [金属製錬・資源開発]

###### 事業環境

- ・ 金属価格の低迷
- ・ 内需の減退
- ・ 鉱石需給の逼迫による買鉱条件の悪化

###### 基本戦略・重点課題

- ・ P P C を核とし、LG - Nikko を含む銅事業の提携効果のさらなる追求
- ・ 佐賀製錬所操業工程の集約化による一段の生産性向上
- ・ 銅を中心とした海外事業の積極的展開
- ・ 湿式製錬・バイオマイニング技術開発の推進

###### [金属加工]

###### 事業環境

- ・ ユーザー生産拠点のアジアシフト
- ・ 薄箔化・高機能化要求の高まり

###### 基本戦略・重点課題

- ・ 倉見工場のスリム化と高付加価値・高機能製品への特化  
(高機能製品比率：H14 年度 15% H17 年度 50%)
- ・ 中国における生産活動の積極的展開
- ・ サブミクロンメタラジーによる高機能材料開発の推進

(3) 電子材料事業(日鉱マテリアルズグループ)

事業環境

- ・ IT関連需要の緩やかな回復
- ・ ユーザー生産拠点のアジアシフト

基本戦略・重点課題

- ・ ファーストベンダー戦略の実践
- ・ 電解銅箔事業の再構築
  - グールド社米国生産拠点の集約・統合
  - 高マージン製品比率の向上
- ・ 成長製品の強化
  - 圧延銅箔：能力増強(H14年度：200万m/月 H17年度：500万m/月)と  
広幅トリートラインの新設
  - ターゲット材：ユーザーニーズを先取りした次世代対応・製品開発と  
タイムリーな能力増強
- ・ 日鉱金属とのシナジーの追求(圧延銅箔等)

以上

問い合わせ先：新日鉱ホールディングス  
IR・広報担当【八牧,山本,高元,花島】  
TEL：03(5573)5123 FAX：03(5573)5139